

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年5月9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873300511		
法人名	有限会社 カサブランカ		
事業所名	グループホーム カサブランカ大宮	ユニット名	新館
所在地	〒319-2135 茨城県常陸大宮市石沢1595		
自己評価作成日	平成23年8月27日	評価結果 市町村受理日	平成24年5月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報公表支援センターのホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0873300511&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年10月19日	評価確定日	平成24年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>■特に力を入れている点 基本理念の一つでもある「アットホームな雰囲気」を職員全員が意識して支援するように心がけている。入居者の方が、笑顔で一日、一日をゆったりと過ごしていただくことを大切にして支援させていただいている。</p> <p>■アピールしたい点 社員は実の家族同士であるため、このホーム自体が家族が集う場所という位置づけでもあり、そこで一緒に暮らす入居者の方との関係も他の施設とは異なった親近感が伴った介護となっている。その他にも、社員それぞれに子供（3歳～中学3年生まで）がおり、ホームで一緒に過ごしているため、子供の笑い声がこだまする環境であり、入居者、その家族の方にも大変喜ばれている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>庭では犬や猫を生まれた頃から飼育しており、家族の一員として利用者とふれ合っている。 代表者夫婦とその子ども世帯が近隣に住みながら事業所の職員として勤務しており、家庭的な事業所となるよう取り組んでいる。 開設以来地域との交流に努め、現在では代表者の家族は町内会の役員を継続的に担っており、地域に馴染んだ事業所となっている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務に入る前に必ず理念を読み上げて、ケアのあり方を確認し実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成している。 毎日の朝礼時に月間目標と共に唱和し、全職員が再確認するとともに実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で地域住民と交流できる催しを行ったり、地域の活動にも積極的に参加するように努めている。 独居宅を訪問したり、ホーム外での交流も行っている。	町内会に加入するとともに地域の商工会議所のメンバーに加わり、街づくりの運営に取り組みながら、広く事業所の理解を促している。 利用者が地域の人々と定期的に交流ができるように、事業所内で芋煮会を開催したり、小学生や中学生の体験学習を受け入れているほか、保育園から演奏会に招待されている。 利用者は散歩時に地域の人々と挨拶を交わしており、独りで外出した場合は近隣住民が電話で様子を伝えてくれる関係になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を利用したり、ホームのイベントに地域住民の方々を招待して、話す機会を作ったり、実際のケアの様子等を見てもらおうなどの取り組みを行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、地域住民の方に事業所の取り組み、現状の報告を行なって、意見交換をしている。今後は市や地域包括センターの職員にも参加を呼びかけてサービス向上に活かす予定である。	2ヶ月に1回の運営推進会議開催計画書を作成し、実施に努めている。 家族会の役員や町内会長、地域住民、老人会会員、民生委員などが参加している。 会議で出た避難時の人手不足による避難の遅れを懸念する意見を基に、地域自ら災害等の緊急時の支援を申し出てくれるなど、運営に活かされている。 年度末に市に運営推進会議録と外部評価結果を提出し報告をしているが、市職員が毎回会議に参加するまでには至っていない。	今後も継続して運営推進会議に市職員の参加を促し、毎回事業所を訪問してもらうことにより、運営に対する理解を深めてもらいながら関係づくりを構築することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のグループホーム協議会の会員となり、市の担当者を含めた会議に参加して、ホームの様子を伝えたり、協力関係を築いている。	地域のグループホーム連絡協議会の会員となり、市職員と共に開催する研修会や会議に参加をしている。 東日本大震災時は市から物資の提供を受けているほか、スプリンクラー設置の補助金について市担当者に相談をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は玄関の施錠を行っている。外部から人が入ることを心配する利用者の方もいるため施錠を行っていますが、他の利用者の方でも開けられる普通の施錠のみ利用している。 身体拘束をしないケアがホームの方針であり、職員も理解してケアに取り組んでいる。	職員の話し合いで、夜間の徘徊予防のための薬剤使用はしないと決めている。 玄関の施錠は行わず、誰でも自由に出入りができるようにになっている。 職員で研修の機会を設け、身体拘束をしないケアの取組みを全職員が実践できるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について理解し、防止に努めている。全職員に対して掲示板等を利用して研修の参加を促しているが、出席が少ないのが現状で、改善が必要である。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、内容を報告書を活用して報告しているが、全体周知にまでは至っていない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、介護支援専門員が説明を行い、不安や疑問点がないか確認、相談しながら理解と納得をしていただけるように努めている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置している。面会に来た際に直接要望を聞くこともある。家族会会長を第3者苦情受付窓口のひとつにもしている。	各ユニットの入り口に意見箱を設け、家族等が来訪した際に投函ができるようにしている。家族会が設置されており、会長が苦情相談受付窓口の一人として対応ができる体制となっている。運営推進会議に利用者や家族等の参加があり、出た意見等は職員に周知して即対応するなど、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	マンスリーミーティングを行っている。業務での気づきやケアについて話し合いをしている。職員主催の親睦会も職員の声を聞ける場となっている（年4～6回）	各ユニット毎に月例会議を開催して職員の意見等を汲みあげ、出た意見等は即実行するようにしている。全職員に必ず発言するように促すとともに、日常的な気付きや思いもその都度提案できるように、職員休憩室にノートと鍵のかかった意見箱を設置するなど工夫をしている。管理者は職員の親睦会を事業所以外で定期的に行い、話し易い雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況によって給与に反映されている。業務に対する水準を作り、向上心がもてるような仕組みを検討中である。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を年2回程度行っている。 全職員を対象としており、個々の職員の能力に応じた学びにまでは十分ではない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市のグループホーム協議会の会員になり、同業者との交流、情報交換を行っている。 勉強会にも積極的に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話に傾聴している。笑顔で接することも心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見、状況等を考慮して話を聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる限り本人とも話をして必要な支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に炊事、洗濯、掃除などを行い、力を発揮できる場を作るように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの一方的な面会時間等の設定は行わず、24時間出入りしやすい環境作りを行い、また家族には普段の日常の様子を報告するようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、職場の同僚など面会に来ていただけるように声かけしている。実際に利用者家族以外の来訪も多い。また、外出支援に昨年度から力を入れており、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	家族以外に友人の来訪も多く、利用者の居室でゆっくり過ごせるようにお茶を提供するなどの支援をしている。 以前住んでいた家の周辺をドライブしたり、運営推進会議で墓参りの支援を家族等に呼びかけたりしている。 電話の取次ぎや手紙のやり取りを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の仲介役になり、孤立することのないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても、その後の状況について情報交換を行ったり、お見舞い、手紙（年賀状等）を送ったりしている。必要に応じて、相談や支援も行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント、モニタリングのミーティングを開き、本人の意向に近づけられるように検討している。	日常の中での利用者の思いの表出にはできるだけ即対応し、職員で連携を図りながら実施に努めている。 例えば「電話をかけたい」、「自分専用の新聞を取りたい」などの要望が挙げられ対応している。 意思表示の困難な利用者の思いの把握にはアセスメントシートを活用し、本人のつぶやきを聞き取り、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、他の事業所からの情報提供からこれまでの暮らしの把握をしている。 入所時に家族にセンター方式シートの記入をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要な場合には、24時間シート（センター方式の書類の一つ）の活用をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員を中心に職員、家族、本人の要望を確認し、アセスメント、モニタリングを行っている。 特に変化が見られない場合でも、3ヶ月に1度は話し合いを行っている。	ユニットリーダーや介護支援専門員、ケア担当で担当者会議を開催し、介護計画作成に向けて話し合っている。 アセスメントシートをもとに3ヶ月毎に介護計画を見直すほか、独自に作成したケアプランチェック表に毎日記録して次回のモニタリングにつなげている。 利用者の心身の状態の変化に応じた臨機応変な介護計画の見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施チェック表を中心に、日々記入している個々の記録を、モニタリングに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その状況に応じて、サービス内容を検討している。 (家族の意向と本人の身体的能力が回復し、在宅に戻って生活しているケースがある)。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前の生活について聴き取りし、どのような暮らしをしてきたのかを把握している。 できる限りその生活に近い暮らしが送れるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聴いて対応している。家族が病院の付き添いを行う場合もある。	入居前に希望のかかりつけ医を確認し、家族等と受診の支援方法を相談している。 通院は家族等が付き添う場合と職員が対応する場合があります。情報の共有に努めている。 受診結果を受診ノートに記録し、不明な点は直接かかりつけ医に問い合わせしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師を配置している。看護師は介護支援専門員も兼務しており、介護職員とは密に情報交換している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、家族、病院とよく話し合い情報提供をしている。特に退院する際には、病院で相談指導を受け適切な対応ができるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医療関係者に確認し、事業所で対応できるかどうかを職員で話し合い、病院、家族と連携を図りながら支援している。	現在は往診を受けてくれる協力医療機関が無いため、看取りケアはしていない。重度化に向けた家族等の意向は契約時に確認し、同意を得ている。必要に応じて地域にある訪問看護ステーションに相談するなど連携を図り、適切な支援ができるよう取り組んでいる。事業所でできることを家族等と話し合い、できるだけ家族等の意向にそえるよう検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応について社内研修を行ったり、介護事故再発防止委員会を設置し、定期的に事故発生時対応策を話し合っている。職員全員が参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の方から協力が得られるように運営推進会議で説明を行い、協力体制を構築している。年2回避難訓練を実施している。	消防署立会いのもと年2回避難訓練を実施し、内1回は火災を想定した避難訓練を実施するとともに、夜間の災害を想定した避難訓練も実施している。避難訓練の実施記録を作成するとともに、課題について話し合った記録を消防署に提出している。職員に消火器の設置場所や避難経路を周知している。米や缶詰、飲料水、食器、電池などを備蓄するとともにガソリン缶を用意しており、今後は長期の停電に備えて自家発電機の購入を検討している。緊急時に地域住民に救援活動にかけつけてもらえるように同意を得ているが、避難訓練への参加を得るまでには至っていない。	今後も継続して地域住民に避難訓練の案内をし、粘り強く参加を促していくことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した声かけができるよう意識付けするため、月間目標に関連する目標を掲げたり、職員同士で注意し合える環境作りをしている。また、声かけの仕方も配慮している。	食事や排泄を促す際は、耳元でやさしく声かけをしている。 「徘徊」などの問題行動にあたる用語は職員間では使用しないようにしており、「散歩」などの言葉に置き換えるなどの配慮をしている。 事業所便りへの写真掲載は、家族等の意向を口頭で確認してから掲載するように配慮をしている。 利用者の個人情報に関する書類は鍵のかかる事務所内に置き、外から見えないように布をかけるなど配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いが言いやすい状況作りや設問の仕方（はい・いいえで答えられるような質問）を心がけている。 言葉で意思表示ができない方の場合、表情や反応を見て対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望、体調でその日ごとに過ごし方を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の習慣に合わせて支援できるように本人、家族と相談しながら支援している。 本人に伺いながら、化粧水やクリームをつけたり、外出時等に口紅をつけたりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けの一部を一緒にやっている。 個々の食べたいメニューの希望を聞き、メニューに取り入れている。	保健所の栄養士と相談しながら独自の献立を作成し、療養食にも配慮をしている。 必要に応じて医師に栄養相談をしている。 刻み食やミキサー食が必要な利用者には、事前にお膳を準備してこれから形体を変えることの承諾を得るなど、利用者全員が食事を楽しめるように工夫をしている。 行事食や外食を取り入れている。 事業所で収穫した果物を利用者と職員が共に食している。 可能な利用者は、食事の準備や後片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量を記入して、一人一人の状態を把握している。その人に合った声かけ、タイミングで食事や水分が勧められるように日々努めている。 摂取ができないときは、ゼリーやアイスなど摂取しやすいものに代えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うように声かけを行い、本人の能力に合わせて支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できる限りトイレで排泄できるよう支援している。 1日の排泄時間を記録して、排泄パターンの把握に努めている。	利用者一人ひとりの排泄パターンをチェックし、利用者の排泄時間に合わせてトイレ誘導をしている。 退院後寝たきりでおむつ使用となった場合でも、車椅子の生活に移行しながらトイレで排泄ができるように努めている。 夜間でもトイレ誘導やトイレ介助をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の人には、ヨーグルトや牛乳を毎朝提供したり、1日1回の運動（体操）を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回、火・金曜日を入浴日としている。排泄物による汚れ等があれば、シャワー浴で入浴日以外にも対応する。また、利用者からの希望があれば入浴日に関係なく、体調等を考慮しながら入浴できるようにしている。他にも、個々に応じてシャワー浴、足浴の対応をしている。	入浴は基本的に週2回午前中となっているが、必要に応じて個別対応をしており、血行不良改善に向けて医師からアドバイスを受けている利用者には、毎日昼食後に足浴を実施している。 利用者全員に毎日フットケアを実施している。 庭で取れた柚子や菖蒲を利用して、入浴を楽しめるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が必要なときに休息でき、夜は安心して休めるように本人の生活習慣の把握に努めている。 また、把握した情報と環境の変化、ストレス等に配慮して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的、用法、用量、副作用について引継ぎノートにて確認、理解できている。本人の状態、経過に関する日常の記録は介護記録に記入している。 服薬時は手渡しして、きちんと服薬できたか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に得意だった裁縫を楽しまれる方やみんなで歌を楽しむ方、それぞれが楽しむことができるように努め、イベント等も企画して実施している。 役割としては、食事のあいさつを担当制にしたり、ADLに応じてテーブル拭きや掃き掃除などできる範囲で行っていただいている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<p>外食や買い物、季節に合わせたちょっとした外出支援に近年力を注いでいる。</p> <p>また、運営推進会議等で利用者の外出をご家族の方に呼びかけるなどの取り組みを行い協力を仰いでいる。</p> <p>他にも地域の文化祭、演奏会など恒例行事にも参加して外出している。</p>	<p>その日の気分に合わせて、2名から3名のグループをつくり、散歩や買い物、歴史資料館、神社巡り、プラネタリウム鑑賞などに出かけられるよう支援をしている。</p> <p>利用者からの要望が多い墓参りは、家族等に連絡を取り協力を依頼している。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<p>現在は、認知症が進行されている方が多くなってきているため、お金を常時所持されている方はいませんが、目的、希望があれば所持できるように支援する。</p>	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<p>希望により電話をかけている方もいる。</p>	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>庭園で花や野菜をとり、飾ったりするなど季節感を感じていただけのような環境づくりを行っている。</p>	<p>玄関には様々な魚が泳ぐ水槽やアロマデュフューザーが置かれ、快適な空間となっている。</p> <p>食堂や廊下は広く、利用者が作成した作品や家族等が撮影した写真などが色とりどりに飾られている。</p> <p>食事中はクラシック音楽を流すなど、落ち着いた空間づくりをしている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子をおいたり、畳で休むことができるような場所を設置している。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の好みや持ち込んだ家具により、その人らしさが表現されている。 落ち着くスペースになるように本人と相談しながら模様替え等を行っている。	利用者は自宅で使用していた机や椅子、タンスなどを持ち込み、自由に配置して居心地よく暮らせるように工夫をしている。 家族の写真や鉢植えの花が飾られ華やかである。 新館では、利用者自らが作成した暖簾を居室入り口にかけており、目印になるとともに家庭的な楽しい空間を演出している。 全室エアコンとベッドが備え付けられている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋のドアには表札をつけ、共用スペースのトイレ、お風呂には分かるように表示して場所が分かるように工夫している。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)</p>	<p>1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない</p>
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>	<p>1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)</p>	<p>1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>

(様式4)

目標達成計画

事業所名 グループホームカサブランカ大宮

作成日 平成24年4月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	<運営推進会議を活かした取り組み> ・市職員が毎回会議に参加するまでには至っていない。	市職員もしくは地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に参加してもらう	①当ホームの年間スケジュールに運営推進会議の予定を事前に計画しておく ②市職員、地域包括支援センター職員にスケジュールの案内、参加呼びかけを行う	①1ヶ月 ②3ヶ月
2	35	<災害対策> 緊急時に地域住民に救助活動にかけつけてもらえるよう同意を得ているが避難訓練への参加を得るまでには至っていない。	地域住民の方に避難訓練に参加してもらう	①避難訓練を行う前に事前に案内を作成して参加を粘り強く促すように努める ②避難訓練時以外にも、当ホームのイベントなどを通じて地域交流に努める	①実施月ごと ②1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。